

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：31309

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23500889

研究課題名(和文)家庭的保育利用児の健康福祉に関する研究

研究課題名(英文)Research on the Living Conditions of Japanese Families' day care

研究代表者

佐野 裕子 (SAN0, Hiroko)

仙台白百合女子大学・人間学部・准教授

研究者番号：50596088

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、家庭的保育を受ける0歳～2歳児698名を対象に、子どもの生活実態を調査し、生活課題を分析することを目的とした。その結果、2歳児については、就寝時刻が21時15分、睡眠時間は9時間45分、起床時刻は7時1分で、夜型の生活習慣であったが、10時間以上の睡眠は46%、毎朝の排便は24%、朝、機嫌の良く起きられるが72%あり、健康的な生活が送られていることが示唆された。これは、起床から家を出るまでの時間が1時間25分あり、ゆとり時間があったことが推察された。

研究成果の概要(英文)：This research has the purpose of surveying actualities of child and analyzing life issues on 698 children who are 0- 2 years old and have child care homely. As a result, 2-year-old children went to bed at 9:15 p.m. and got up at 7:01 a.m., the sleeping period was 9 hours and 45 minutes, life customs were concentrated at night. 46% of children slept over 10 hours, 46% of them defecated in the morning and 72% of them got up in the good mood in the morning. This suggests that children spend a healthy life. Besides, it took 1 hour and 25 minutes to went out from uprising, which inferred there were margin for time.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：健康福祉 家庭的保育 生活実態 睡眠時間 朝の機嫌 朝の排便 ゆとり時間 健康生活

1. 研究開始当初の背景

我が国では、女性の晩婚化、未婚化の進展により少子化が進行するとともに共働き世帯数は増加し、保育所入所希望児童数は増え続けている。大都市圏では、待機児童が多く存在しており、保育所の需要増に供給が追い付かない現状があるが、保育の量的な拡大の必要性とともに、日中の生活の大半を保育施設で過ごすため、子どもの健康生活を保障する「保育の質」の担保も重要な課題であると言える。

しかし、近年の子どもの生活を鑑みると、生活習慣上の睡眠、食事、運動の3要素に大きな課題があり、3歳未満児期からの遅寝、短時間睡眠による健康への影響が懸念されている。

2. 研究の目的

社会的保育施設の供給主体である保育所通所児の生活実態に関する研究は数多く実施され、問題や課題が分析されてきた。しかし、保育所と同等の通所要件をもちながら、保育環境が保育所と全く異なる、3歳未満児保育に特化した少人数個別保育の家庭的保育受託児の生活実態については調査されていない。

そこで、本研究では、従来行われてこなかった家庭的保育受託児の生活実態を全国から抽出し、保育所利用児の生活実態との比較を行い、家庭的保育の特性に応じた健康生活のあり方を模索する。国の待機児童対策に寄与する提言を行うこととした。

3. 研究の方法

2011年9月～2011年12月に、全国の11都道府県の個人実施型の家庭的保育室(定員5名以下)で保育を受ける3歳未満児の保護者2,086名を対象に郵送法による質問紙調査を実施した。調査の内容は、就寝時刻や睡眠時間、起床時刻、朝食状況など27項目であった。質問紙の回収率は、43.1%(899名)で、有効回答者数は698名(男児380名・女児318名)であった。保育所通所児の生活実

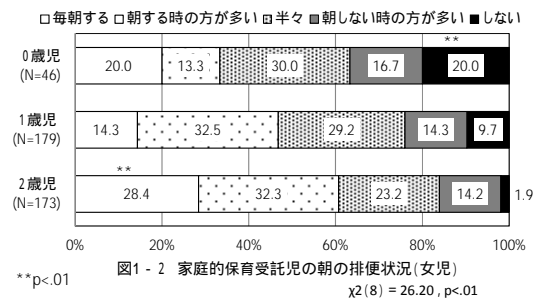
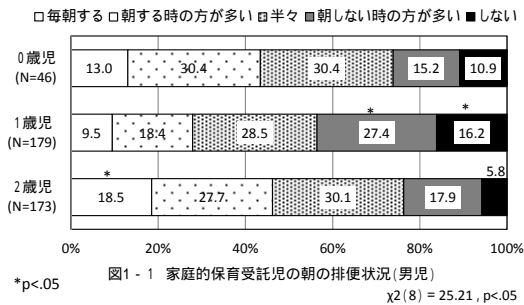
態は、2011年1月～12月で、1都1府13県、4121名(男児2935名・女児2047名)の保護者を対象に、家庭的保育と同様の調査を行った。統計処理は、SPSS(ver20)を用いて、クロス集計、²検定、t検定を行い、あわせて、生活時間をはじめとする数値項目間の相関係数を算出した。

4. 研究成果

(1) 平均就寝時刻は、家庭的保育受託児の1歳児で、21時3分(±43)、保育所通所児が21時6分(±41)、2歳男児で、家庭的保育受託児が21時14分(±38)、保育所通所児が21時19分(±41)であり、女児の1歳児は、家庭的保育受託児が21時4分(±45)、保育所通所児は21時9分(±33)で、2歳児では、家庭的保育受託児が21時16分(±40)、保育所通所児が21時23分(±41)であり、いずれも有意差はみられず(n.s)、健康的な生活習慣を送る上での目安¹⁾となる、21前就寝には及ばなかった。

(2) 平均睡眠時間は、家庭的保育受託児の1歳児で、9時間54分(±64)、保育所通所児が9時間47分(±40)で、有意差はみられなかった(n.s)。2歳男児では、家庭的保育受託児は9時間45分(±41)、保育所通所児は9時間39分(±37)で、家庭的保育受託児は保育所通所児より、有意に長時間であった[t(1364)=1.93, p<.05]。女児の1歳児は、家庭的保育受託児が9時間53分(±42)、保育所通所児が9時間46分(±41)で、家庭的保育受託児は保育所通所児より有意に長時間であり[t(1007)=-2.06, <.05]、2歳女児では、家庭的保育受託児は9時間45分(±38)、保育所通所児が9時間39分(±39)で、家庭的保育受託児は保育所通所児より有意に長時間であった[t(176.06)=2.04, p<.05]。健康的な生活習慣を送る上での目安¹⁾となる10時間以上の睡眠をとっている家庭的保育受託児は44.3%(2歳女児)～62.7%(1歳女児)であった。

(3) 朝の排便状況は、家庭的保育受託児の



2歳男女児は共に、「毎朝する」と「朝する時が多い」が、保育所通所児より有意に多く、保育所通所児は、「毎朝しない」と「朝しない時が多い」が有意に多かった(図1-1, 図1-2)。家庭的保育の2歳児の18.5%(男児)~28.4%(女児)が「毎朝する」で、27.7%~32.3%が「朝する時が多い」であった。また、保育所通所児の2歳児は、5.6%(女児)~8.0%(男児)しかいなかった。朝食の量や質の不足、朝の排便に費やす時間の短さ等が原因として挙げられる。1日の中で最も排便をしやすい時間帯であるが、保育所通所児の朝の排便率が低率であったことは、朝食の量や質の不足、朝の排便に費やす時間の短さ等が原因として挙げられる。

(4) 起床時の機嫌について、家庭的保育受託児と保育所通所児の1歳男児を比較すると、保育所通所児の「機嫌が悪い時の方が多い」と、家庭的保育の「いつも機嫌が良い」、「機嫌の良い時の方が多い」が有意に多かった[χ²(15) = 26.62, p<.01]。同じく、2歳男児を比較すると、家庭的保育の「いつも機嫌が良い」が有意に多かった[χ²(4) = 11.30, p<.05]。2歳女児については、保育所通所児の「機嫌の悪い時の方が多い」が有

意に多かった[χ²(4) = 9.538, p<.05]。

起床時の機嫌は、幼児が良好な睡眠を得ている目安として挙げられている²⁾。

(5) 朝、家庭的保育室や保育所に通所するために、家を出る時刻の平均は、家庭的保育受託児の1歳男児は、8時19分(±83) 保育所通所児は7時50分(±100)で、保育所通所児より有意に遅かった

[t(1040)=-3.17, p<.01]。2歳男児では、家庭的保育受託児は8時26分(±48) 保育所通所児は8時4分(±72)であり、保育所通所児より有意に遅かった

[t(1384)=-3.86, p<.01]。

女児では、家庭的保育受託児の1歳児が8時26分(±78) 保育所通所児が8時10分(±23)で、保育所通所児より有意に遅く [t(1002)=-3.99, p<.01]、2歳児では、家庭的保育受託児が8時25分(±78) 保育所通所児が8時13分(±22)で、保育所通所児より、有意に遅かった

[t(1347)=-3.67, p<.01]。家庭的保育受託児は、起床から家を出る時刻までは、1時間23分~1時間29分、保育所は、57分~1時間14分であった。

(6) 家庭での1日のテレビ・ビデオ視聴時間の平均は、家庭的保育受託児の1歳男児は、1時間15分(±53) 保育所通所児は、1時間40分(±80)で、保育所通所児より有意に短時間であった[t(353.794)=4.61, p<.01]。また、2歳男児は、1時間22分(±52) 保育所通所児は、2時間1分(±78)であり、家庭的保育受託児は保育所通所児より有意に短時間であった[t(295.552)=8.52, p<.01]。女児のテレビ・ビデオ視聴時間の平均は、1歳児で、家庭的保育受託児は、1時間17分(±59) 保育所通所児は、1時42分(±72)で、保育所通所児より有意に短時間であった[t(252.576)=4.50, p<.01]。また、2歳児では、家庭的保育受託児は、1時間36分(±63) 保育所通所児は、1時53分(±76)で

あり、家庭的保育受託児は保育所通所児より、有意に短時間であった

[$t(1347)=2.42, p<.05$].

(7) 保護者の家庭的保育の満足度は、「とても満足」が73.0% (1歳児) ~ 75.8% (2歳児)の範囲にあった。「とても満足」と「やや満足」を併せ「満足」とすると、91.6% ~ 93.3%が「満足」であった。

(8) 相関係数を算出し、生活時間相互の関連性について、1%水準でかつ、 $r > |0.3|$ のものを抜粋し、図示した(図2)。男児では、夕食時刻が遅いと、就寝時刻が遅い($r=0.34$)、就寝時刻が遅いと、睡眠時間が短く($r=-0.67$)、起床時刻($r=0.45$)や朝食開始時刻($r=0.35$)、排便時刻が遅い($r=0.30$)、起床時刻が遅いと、朝食開始時刻や($r=0.81$)、登園のために家を出る時刻($r=0.44$)、排便時刻が遅い($r=0.36$)、朝食開始時刻が遅いと、登園のために家を出る時刻が遅く($r=0.69$)、排便時刻が遅い($r=0.30$)という結果となった。女児については夕食時刻との関連性はみられなかった。

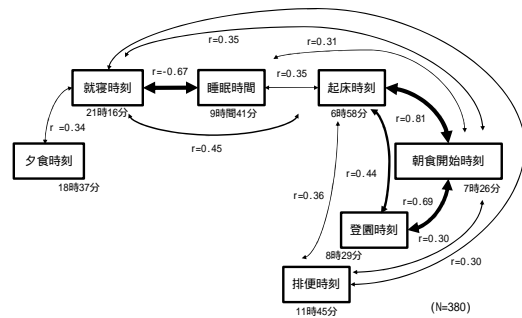


図2 家庭的保育受託児の生活時間相互の関連性(0歳~3歳 男児)
 $p<0.001, r > |0.3|$ のもののみを抜粋 [数値は相関係数(r)]

(9) 保護者の家庭的保育の満足度は、「とても満足」が73.0% (1歳児) ~ 75.8% (2歳児)の範囲にあった。「とても満足」と「やや満足」を併せ「満足」とすると、91.6% ~ 93.3%が「満足」であった。

(10) 保護者が家庭的保育者に育児や教育の相談をする割合について、「良くする」が34.7% (0歳児) ~ 39.9% (2歳児)の範囲にあった。また、「良くする」と「時々する」

を併せて「相談する」とした場合、87.1% (2歳児) ~ 90.7% (0歳児)の範囲にあった。

まとめ

従来行われてこなかった家庭的保育受託児の生活実態を広域で調査し、子どもの年齢や性、健康条件を分析の条件に入れて検討の上、保育所通所児の生活実態と比較検討し、家庭的保育受託児の生活の特徴を明らかにした。その結果、家庭的保育受託児の生活リズムは、保育所通所児と同様に夜型生活の傾向であった。これは近年の社会的保育の特徴といえよう。また、朝の機嫌の良さ、2歳児の朝の排便率の高さなどが確認された。これは、起床から家を出るまでの朝の時間が、保育所通所児より長く、ゆとり時間がもたらしたものと推察した。

家庭的保育は、1人の保育者が少人数の子どもを保育することから、ある程度時間を融通できる利点がある。子どもひとり一人の24時間の生活実態を考慮した柔軟な保育計画と家庭との連携を強化して保育にあたることで、遅くなりしがちな生活リズムを健康的な生活リズムへと導くことができよう。

【引用文献】

佐野祥平・松尾瑞穂・前橋 明, 2011, 「児童の幼児の良好な睡眠についての検討」『食育学研究』6, pp.36-45.

佐野祥平・松尾瑞穂・金 銀正・前橋 明, 2011, 「幼児の良好な睡眠についての検討」

『子どもの健康福祉研究』15, pp.19-27.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

佐野裕子、家庭的保育利用児の生活実態(2011年度)とあそび時間の検討 - 保育園児の生活実態調査との比較から -、日本幼少児健康教育学会『運動・健康教育研究』、査読有、第21巻1号、2013、22 - 37

佐野裕子、家庭的保育利用児の生活実態(2011年度)と健康福祉上の課題() - 保

育園児の生活実態との比較から -、日本幼少
児健康教育学会『幼少児健康教育研究』、第
19 卷 1 号、2013、8 - 23

佐野裕子、家庭的保育利用児の健康福祉に
関する研究、平成 23 年度 科学研究費補助金
研究成果報告書

〔学会発表〕(計 2 件)

日本子ども家庭福祉学会第 13 回全国大会

日本幼児体育学会第 10 回全国大会

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 佐野 裕子 (SANO, Hiroko)

仙台白百合女子大学 人間学部 准教授

研究者番号：50596088

(2) 研究分担者前橋 明 (MAEHASHI, Akira)

早稲田大学 人間科学学術院 教授

研究者番号：80199637